

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800030		
法人名	堀 建設 株式会社		
事業所名	グループホーム 悠心彩・中西		
所在地	島根県益田市市原町イ434-1		
自己評価作成日	平成24年2月29日	評価結果市町村受理日	平成24年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 aigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3290800030&SC

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成24年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所の理念どおり「健やかに・穏やかに・にこやかに」尊厳あるその人らしい暮らしを支援できるようにスタッフ全員で取り組んでいます。また、生活環境にも恵まれ静かな場所で四季を感じられるよう環境整備にも努めています。
GH悠心彩(日原)に入居者、スタッフと相互訪問し合って交流を深めたり、地域との交流やボランティアとの交流により、生活環境の広がり和社会性の維持に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者、家族、地域の方と共に支え合い、「地域の中の大家族」として、その人らしい暮らしの支援ができるよう取り組んでいる。元の家が遠方だったり、家族が県外にいる利用者も多く写真を添えた手紙を出し生活の様子を詳細に伝え、家族にも喜ばれ、情報を共有し話し合いながらケアに反映させている。今年度は災害時の地域との連携強化を目標に緊急警報装置を両隣の家に設置したり緊急連絡網を新たに作成し、地域の方と共に防災訓練を行った。スタッフ研修にも力を入れ月目標を決めて学び合い実践に繋げられるよう取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業理念を掲示、日々目を通し把握理解し、日々のサービスを実施している。	スタッフ研修で全職員で話し合い理解をしている。理念に基づき、利用者がゆったりと、その人らしく生き生きと過ごすことができるケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園や小学生との交流を深め、新たに小学校の授業参観に招待され小学校へ出かけた。地区の文化祭や盆踊りにも招待を受け参加させて頂いている。	地域の行事に参加したり、小学生や保育園児と交流している。ボランティアから手編みの帽子を貰ったり、畑で作ったさつま芋を小学校におすそ分けするなどしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方との交流を深めたり地域の方の施設見学を受け入れている。近隣の小学生も不定期に遊びに来てくれる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議においては、細部まで報告をし、他方面から指導、鞭撻を頂き、参考にさせて頂くとともにサービス向上に活かしている。	地域行事に継続的に参加したい、事業所の役割、様子を地域の人に伝えて欲しいなど、委員に協力を依頼している。ヒヤリハット報告なども行い意見をサービスの向上に活かしている。	地域との繋がりを深めることができるよう多分野の方の参加を依頼し、活発な意見交換が行われることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、市担当者も出席して頂き、最新情報を伝えて頂いたりして相互関係を築いている。	介護報酬などについて情報を貰ったり、事業所通信で取り組みを伝えている。介護相談員から利用者の悩みや思いなどの情報を貰い、共に検討したりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の方は自由に玄関より出入りできるよう解放しており、身体拘束をしないよう取り組んでいる。	全職員で毎月テーマを決め身体拘束をしないケアの研修を行い理解を深めている。家に帰りたい希望がある利用者には共に出かけたり、思いに沿った話しかけをして強制をしない、納得のいくケア、に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、より正しい知識を習得したり、日々のケアの中でもお互いに注意しながら業務にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護研修に参加し、研修内容をスタッフ研修時に説明し理解を図った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行ない、ご家族より同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、入居者の状況をお話させて頂き、その都度ご希望の確認を行っている。2ヶ月に1回近況報告をさせて頂いている。玄関には意見箱を設けて誰でも意見が出せるよう取組んでいる。	面会時や電話で意見を貰い何でも言い合える関係づくりをしている。出た意見は業務日誌に記録し、管理者がまとめ、必要時家族に協力を依頼したりして運営に反映させるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月スタッフ研修を実施し、その場でいろいろ出た意見を日々につなげたり、「言いたいことカード」が設置してあり毎月解答が出されている。	意見や提案を言える環境が整っている。レクリエーションメニューの提案や調理器具、利用者に応じたオムツの購入などの意見をスタッフ研修で検討し、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者を優遇し、やりがいのある職場づくりを目指すとともに給与水準の向上を図り職場環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部からの研修案内があるたびに各スタッフに提示している。参加希望者に対しては勤務の調整を行い出来るだけ参加を促し、スタッフのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同圏域主催のスタッフ研修に参加したり、ネットワーク会議に参加、他の施設や各機関との交流に努め、一層質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族の要望にあわせ、ご本人の気持ちを大切にできるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向を大切に信頼関係が結べるように、ご家族の意思を確認しながらサービスの説明を行ないサービスを導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホーム内の雰囲気や生活環境を知って頂くために、事前の来所や体験入所ができるように配慮している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の一員として入居者の能力に応じて、出来る事に参加して頂きながら、お互いを支え合いながら関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の様子や体調の変化について随時連絡させて頂いている。また、次の面会まで期間が長い方においては、こちらより連絡をさせて頂き、ご様子をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限はなく自由に面会ができる。本人や近隣の方との面会も楽しく過ごされている。また、故郷訪問も実施している。	初詣に行ったり、とんど焼きに参加し馴染みの人と出会ったり、近隣の人や友人の面会もある。家族に協力を依頼し故郷訪問や馴染みの美容院に行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人の生活歴に配慮しながら、お互い支え合い共同生活がスムーズにできるようにフタッフは気配りを行っている。また、レクにおいても個別・集団で楽しめる内容を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、いつでもご家族の相談に応えている。また、ご本人の入所先へ面会に訪れ生活状況や様子について情報を得て交流を継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや意向を重視し、ケアにあたっている。意思表示できない方には、様子や表情から意向の把握に努めている。また、記録の開示も行い家族にも自由に記入を促している。	家族には思いを自由に直接ケース記録に記入して貰うようにしている。一人ひとりの気持ちに寄り沿い声をかけ、散歩や草むしりなどで気分転換を図りながら思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の生活歴を重視しながら、生活環境の配慮に努めている。居室には畳を用意し家庭の雰囲気づくりをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムで無理のない様に支援を行っている。また、本人の能力に応じて得意とされる事を日常生活の中に取り入れている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	「生活リズム表」を活かして個別ケアに取り組んでいる。	生活リズム表をもとに利用者、家族の意向を確認し担当者が中心となって介護計画を作成している。全職員が気づき、身体変化など介護記録に記入し、毎月スタッフ会議でモニタリングを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に毎日の気付きや健康状態について記入し、スタッフ間で情報を共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の希望により行きつけの美容院へ出かけて頂いたり、外出や外泊がスムーズにできるようにご家族と連携を取りながら調整させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にも参加させて頂いたり保育園・小学校の子どもさん達との交流が持てるように支援させて頂いている。又、ボランティアとの交流もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の往診が受けられる。必要時主治医、ご家族と相談のうえ他の医療機関の受診も行っている。又、入居前のかかりつけ医による往診も引き続き受けられるように支援している。	定期的な主治医の往診や希望があれば馴染みのかかりつけ医の往診も受けることができる。他の医療機関の受診は基本的に家族が対応しているが、状況によっては看護師が同行し支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での気づき、又は必要時には看護師に報告、主治医の指示を仰いでいる。不在時には電話により看護師に報告指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族の了承のもとで情報提供を行い、治療に協力をしている。病院へ面会に行き病院よりの情報収集に努め早期退院できるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会で「看取り」について説明させて頂き理解協力を得る。また、必要時には個別に対応し、ご家族の意向を重視している。	家族、主治医と話し合いながら支援している。「最期までここで」という家族もあるが、現状では夜間の体制が整っていないので、事業所として出来る最大の支援を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルや事故マニュアルを見やすい壁に提示し、素早い対応ができるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方を含めた防災訓練を実施したり、地域を含めた緊急連絡網の実施を行っている。	「地域との協力体制強化」を今年度の目標として取り組み、地域の人と合同で防災訓練を実施した。夜間、昼間の緊急連絡網を新たに作成し協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレへの声かけは一人ずつ行い、プライバシーに配慮している。	利用者を尊重した声かけ、対応ができていますか職員同士確認し合っている。スタッフ会議で接遇をテーマに倫理の理解、ストップコールをしないなど月目標を決めて話し合い、意識を高めながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	接遇の研修において、ストップコールをしないよう取り組みを行っている。本人が自己決定しやすいような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間・就寝時間も本人のリズムに合わせている。日中もレクリエーション等実施しているが、自室で過ごしたい方は強制はせず、声かけのみを自分で選択出来るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝・夕の更衣も本人が選択し着衣される。又化粧をされる方もある。髪が長くなるとご家族に連絡し散髪等を促し支援を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の処理や盛付け配膳など、本人の能力に応じた支援を行っている。嗜好調査を行い利用者の好きな献立等にも配慮している。	利用者に嗜好調査を行って希望を聞きとり献立に活かしている。朝、夕は職員が調理し、利用者と共に下ごしらえや盛り付けをしている。食事を残す人は殆どなく、職員と和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分量・食事量の把握を行なっている。食欲低下があれば、看護師を含め原因追及し食事の形態や方法を変える工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前・後には手洗いと嗽を実施して感染予防を兼ねて実施している。又、眠前には義歯を洗浄液に浸ける支援を行なっている。入れ歯が合わない状態であればご家族に連絡し歯科受診をお願いさせていただく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全員の方の排泄状況を記録に残し、本人の排泄パターンを共有している。本人の表情や行動の変化で、声かけや誘導の支援を実施している。	生活リズム表から排泄パターンを把握し支援している。利用者に応じた声かけや誘導をすることで失禁による衣類汚染が少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、起床後コップ一杯の水を飲んで頂いている。便秘がちの方には、下剤が処方され看護師と相談しながら、下剤の調整を行なっている。また、献立に関しても食物繊維の多い食材を使った野菜料理を食してもらっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人のご希望を伺いながら入浴して頂いている。本人の気分や機嫌によって入浴を拒否される場合は、声かけのタイミングやスタッフを交代するなど工夫している。どうしても拒否されるときは入浴日を変更し柔軟な対応を実施している。	利用者の希望に応じて支援し日曜日以外毎日でも入浴できる。身体状況が低下した人には複数の職員で対応し、安全で気持ちよく入浴をして貰えるよう対応に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、午睡される方もおられ自由に生活して頂いている。居室内ではテレビを見たり・お茶を飲まれたりとゆっくりと過ごして頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の介護記録に服薬中の薬の文献を入れ、誰でも確認できるようにしている。また、新たな薬が追加になればその都度日報に記入して職員へも連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事・掃除・洗濯物など・本人の能力に応じて役割をもって張りのある生活を送って頂いている。又本人の得意とする習字・塗り絵など個別にレクリエーションに取り入れ楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候に応じて戸外の散歩をしたり、ドライブを兼ねて買い物に出かけたりしている。又、季節ごとに地域行事にも参加し楽しんで頂いている。	職員から話しかけ、家に帰りたい、季節の花を見たい、などの要望を聞き行事予定に取り入れている。天気の良い時は広いベランダや畑に出たり、散歩をしたりして支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理についてはご家族が管理されている。本人の希望があれば、ご家族に伝え対応して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話がかかり、本人との会話を希望されれば直接お話しして頂いている。ハガキや手紙も本人の能力に応じて書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や食堂には、季節の花を生けたり、テレビや音楽の音量も適度に保っている。また、和室スペースでは、自由に横になれる様に工夫されている。ホール内は入居者の交流スペースとしてゆったりと過ごして頂いている。	玄関、ホールには音楽が流れ、季節の花や利用者の作品が飾られている。畳で横になったり、ゆったり寛げるソファも置かれ気持ち良く過ごせる場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	午前中は出来るだけ全員参加でレクリエーションに参加して頂き、午後は自由な時間を過ごして頂ける様配慮している。居室内では読書をしたり、他の方の部屋でお喋りをしたり、ホールで気の合った方との話と自由な時間を過ごされる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはそれぞれ、以前から使っておられたイスやタンスなどを置かれている。又神棚・遺影を置いて毎日、手を合わせる方もおられる。本人のいこうに沿った部屋のコーディネートを楽しんで頂いている。	馴染みのタンスや机、椅子などが置かれている。植木鉢の世話をしたり、使い慣れたお茶道具、神棚や遺影などを置き、落ち着いて過ごすことのできる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっている。手すりや戸外の柵を持って歩行できるようになっている。廊下には椅子もあり、途中で休憩をとったり、お話の場としても活用できている。部屋の入口には表札をかけた家庭の雰囲気作りに配慮している。		